

科目	「問15. 授業の難易度」、及び「問16. この授業のための週当りの学習時間」に対する学生による評価をみて、どのように考えられますか。また、改善案があればお書きください。
L	難易度はほぼちょうど良かったように感じるが、来年度はもう少し高度な内容を分かりやすく説明できるよう改善したい。また、教養科目のため学習時間はそれほどとらせなかったが、今後はもう少し自宅学習の時間をとらせても良いように感じた。
L	「易しすぎる」と「易しい」が1人もおらず、「ちょうどいい」が半数以上を占めたのは、私の目指すレベルにほぼ適っていた。 学習時間は「1時間以内」が最も多い(30%ほど)が、半数以上が「1～2時間」になるような授業にしたい。そのための改善案としては、教科書以外にも本を読ませてレポートを書かせることが考えられる。
L	文系の学生には難しい内容であるので、理系の学生の半分のスピードでゆっくりと講義を進めた。イメージやエッセンスは伝わったと思う。
L	全体的に難易度が高いという評価であった。これに対する改善案はより平易で丁寧な説明を心がけるといふ点に尽きるであろう。次回はレジメを配ってよりわかりやすい授業にしたい。
L	「難しい、難しすぎる」と答えた学生が多かったです。授業内容が数学的過ぎたのかもしれませんが。数学的な内容を直観的に説明できるように、工夫したいと思います。 科目名が「初歩からの統計」ですので、統計の初歩を詳しく学習するような内容にしようと思います。例えば、「区間推定」や「仮説検定」については、「(母分散が既知の場合の)母平均の推定・検定」のみを扱うことにしたいと思います(「母比率」については軽く触れる程度にします)。
L	難易度をもう少し上げて良いと考える。また、レポート課題をもう少し時間のかかるものにして良いと考えた。
L	難易度については、60%の学生が「ちょうど良い」と回答しているが、「難しい」とする者も24%程度ある。環境問題はある部分、自然科学的内容と社会科学的内容とが、混在しており、専攻によってその違いが現れたのではないかと感じている。 週あたりの学習時間については、32%の学生が「なし」と回答(1時間以内が44%)しており、何らかの課題を宿題として課すような手立てを講じなければならぬと感じている。前期と比べると「なし」の割合は16ポイント下がっており、自己学習の時間は増加している。シラバスには事前学習の指示を示しているが、ほとんどの学生はそれを見ていないと思われるので、毎回とまではいわずとも数回に1回は小レポートとして課すなどの手立てが必要である。
L	授業の難易度は、予想どおり問題ないレベルだった。授業のための週当りの学習時間は、宿題を出しているわけではないので、「なし」が多くても仕方ないし、気にしていない。
L	難易度に関してはやや難しいと感じた学生が多いにもかかわらず、学習時間は「なし」が半数以上を占めている。上記のように、授業で用いる資料(画論)はあらかじめ配布しており、授業内容をよく理解するためには予習が必要であると数度指摘している。それにもかかわらず、予習せずに授業に臨み内容が十分理解できずにいるのは不可解である。
L	前年の授業と比較すると、難易度を落としたため、学生からは丁度よいとなっているようだが、私個人としては、もっと難易度を上げたカリキュラムにしたい。しかし、難易度を上げる≒学習時間の増加とはならず、授業について来られない学生が増えてしまうのが現状であり、大きな悩みの種である。
L	問15の「授業の難易度」については83.3%が「ちょうどよい」であり、学生にわかりやすい授業ができたと自己評価している。しかし、学生自身が自己学習に裂く時間が少ないことが懸念事項ではある。

L	(7)への回答にも記したが、課題の提出率は高く、またその内容も大変意欲的なものであったことから、それ相当の学習時間を本授業に充ててくれたものと察する次第である。 今後も学生の学習意欲を高めるためのよりよい工夫を怠らないよう心がけたいと思う。
L	難易度は個人差が大きいので判断しかねるが、様々な学生がいる中で、「デザインは誰にとっても身近なものである」ことを感じさせるという意味ではまずまずの設定であると自負している。また、学生たちが課題を楽しめることをモットーとしているので、嬉々としてプレゼンテーションをしているのを見て、良かったと思う。
L	問15 授業の難易度について、68.4%がちょうどいいと答えている。週あたりの学習時間については3時間以上～なしまでさまざまであり、テストやレポートに取り組む学生の態度の違いがみうけられる。
L	授業の難易度については、ちょうどいいという評価が高かったのでこのままで良いと思う。週あたりの学習時間については、毎回扱う作品を事前に読んでから授業に参加するという形を取っていたので、きちんと取り組んでいけば、ある程度の準備時間が必要になるような授業であった。取り組み方には個人差があるものの、授業内で学生と直接、作品内容の確認や質疑応答をやりとりするような時間を持つべきだったと思う。 アンケートの問16については、「レポートに費やす時間も含む」とあるにも関わらず、「なし」という回答者がいた。最終レポートは全員提出であったため、「なし」という回答者はいないはずである。
L	授業の難易度は、「ちょうどいい」が56.3%であったが、「難しい」「難しすぎる」が34.4%あった。今後、難しい語句に解説を加える等、工夫をしたいと思う。学習時間にはばらつきあり、「1～2時間」～「3時間以上」が21.8%であった反面、「なし」も40%程度あった。時間の差は、文学作品に対する学生の関心の持ち方にもよると思われるが、予習が有効になるように、学生自身の読解と授業で学んだ結果との比較をさせる設問を追加する等の改善をしたいと考えている。
L	こちらの意図と学生の理解はほぼうまくいっている
L	本来的には1時間程度の予習はしてほしい。おそらく7割程度の学生は多少は予習してくれたと思っている。わたしができるのは90分の授業のなかで、可能な限り懸命に考えるよう導くことである。それが精いっぱい。
L	難易度に関しては「ちょうどいい」が61%で、それなりの評価を得た。また学習時間に関しては、1時間ほどの授業外学習をしたという学生が41%あったので、これもまずまずかと思う。
L	授業の難易度については、極端にやさしいわけでも無く、難しすぎるわけでも無く、ちょうど良い42%、難しい35%との回答があるので、このままで良いと思われる。学習時間は、1時間以内33%、なしが26%もあるので、積極的に学習時間を増やせるような、授業内容に関連した課題を課すことを考えている。
L	授業の難易度としては「ちょうどいい」という学生が75%と大変多く、良かったと思う。週あたりの学習時間については個々の学生にもよるが、1時間以内と答えた学生が45%いた。このように比較的学習時間の不十分な学生が多かったのは、発表形態がグループによることも大きく影響していたのではないかと思われる。グループの構成員がみな積極的に発表内容に関わっていけるように今後工夫していきたい。例えば、個々の構成員の役割を明確にしたり、また、どのような役割を担ったか学生たちに述べさせたりするような形が考えられる。
L	かなりの程度レベルを落して講義をしたが、そして事実、半数以上の学生が難易度は丁度良いと回答しているが、さらに積極的に授業に参加してもらえるように毎回課題を課し、レポートとして提出させるなり、グループで発表させるなりして、彼らの学習時間をアップさせる工夫が必要だろう。

L	<p>問15: 特になし。</p> <p>問16: 選択科目とはいえ、授業に対するモチベーションが決してある訳ではないと感じている。</p> <p>毎回の授業で課題を与えなかったためか、予習・復習等に費やす受講生の学習時間は少なかつたと思われる。</p>
L	<p>問15. 昨年度く「ちょうどいい」が過半ではあるが、「難しい」「難しすぎる」も4分1程度あることを考えれば、(2)問9の工夫(特に教材資料)をさらに平易化する必要があるだろう。)と記した。今年はこのふまえ、各回の教材資料の分量を軽減し、注解や補足説明を増やした。今年「難しすぎる」という回答はなく、ある程度は改善されたと考える。</p>
L	<p>学生の評価は正規分布的に「ちょうどよい」であったクラスと「ちょうどよい」と「難しい」が混在するクラスがあった。個人的には「ちょうどよい」よりは「難しい」ことにチャレンジさせることで成長を促せると思っているので、まさに、「ちょうどよい」難易度であったと考える。改善案としては数学的に「説明」で終わったところを「証明」にしていければ、と考える。実際、数学好きの学生の中にはちゃんとした証明を見たかったと言う学生もいた。そのような学生が自ら進んで証明しようとする、もしくは、それなりの方向性、ヒントを与えて終える授業展開が望ましい。</p> <p>また、学習時間に関しては特に毎回の宿題を課していないため、回答では平均して少ない時間である。しかし、最終課題にはそれなりの時間を費やしてくれたであろうレポートが多く、普段からの学習時間は少ないけれど、その頑張りはいずれの限りである。改善案の一つとしては、一つの事柄を深めていく授業展開においては一段一段の理解を確かなものにするためにコンスタントに学習する習慣を身に付けさせるべく課題を出していくことになるだろう。</p>
L	<p>受講学生の大部分が理系コースに所属していたため、宇宙物理学の専門的な内容を少し盛り込むようにした。ただ、授業目標の達成度が高い一方、ほとんどの学生の週あたりの学習時間が1時間以内であったことは、授業内容が若干平易だったのかもしれない。</p>
L	<p>この授業のための週当たりの学習時間をみると、46.7%の学生が「なし」と答えているので、学生の負担感はかなり小さいと推測する。</p> <p>授業内容に関連する本を読ませたり、関心を高められるような課題を設定する。</p>
L	<p>授業中に回収した学生の感想などをみる限り、普段から読書習慣のない学生にとって、長編小説(『罪と罰』)を読むこと自体が、かなりの苦痛を伴う体験だったことが伺われた。しかし、だからこそ、授業の中で「半ば強制的」にでも読書をする機会を持ったことは、個人的な信条としては抵抗を感じるが(本来読書は個人的な体験である)、一定の教育効果もあったのではないかと思う。学生たちがそのために費やした貴重な時間と労力は必ず報われると信じたい。</p> <p>欲を言えば、『罪と罰』については、今後も折にふれて再読し、小説のテーマを考究して欲しいと願っている。そのためにも、授業では、より深く、面白くあるいはよりリアリティーをもってイメージを描けるような魅力的な解説となるよう心がけていきたい。</p>
L	<p>一般的に“現代音楽”は難解と思われ敬遠されがちなことを考えれば、学生たちはとても関心を持って授業に参加していたと思われる。その上で、その音楽に興味を持った学生がより理解を深めることができるように資料の提示、参考文献の紹介等を増やしていきたい。授業のための「課題・学習」ではなく、学生自身の心を豊かにするための「楽しみ」としての関わりを促す工夫にしたい。</p>
L	<p>アンケート集計によれば、8割以上の学生が「難易度はちょうどいい」と答えており、私が心を砕いて説明してきた授業内容をある程度受け入れてもらえたかと判断している。一方、学習時間で「1時間以内」が5割であることをみると、少し不十分なように感じる。教科書の予習・復習時間は、私の想定では少なくとも2~3時間かかるので(まじめにやれば)、このあたりの時間がもう少し伸びてくるとよいと思う。</p>